

# 明石市整備 1000匹收容生かし活用

## 泳がせない

爆発的な繁殖力が問題になっている外来種ミシシippアカミミガメ(ミドリガメ)の防除を進めようと、明石市が整備していた保管プールが14日、完成した。持ち主がペットとして飼えなくなったり、ため池で捕獲されたりした個体を收容する。廃棄処分が一般的だが、市は「生き物の命を無駄にしない」とし、堆肥化して活用する研究に乗り出す。

(望月弘行)

プールは、同市大久保町松陰の明石クリーンセンター屋外に設置。縦5メートル、横9メートルの長方形で深さ40センチ、甲羅干し用の島などを設け、約1000匹收容出来る。

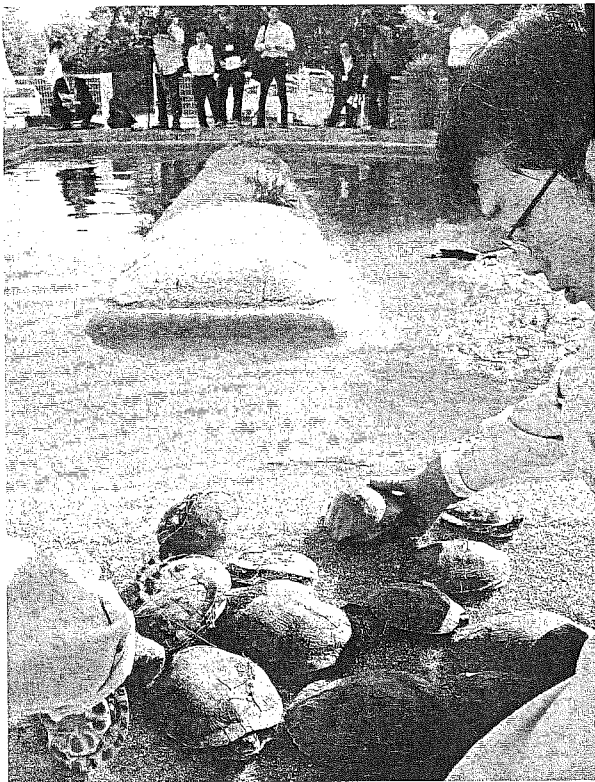
この日は、市民から引き取った80匹をプールに放した。ペットだったガメにはタグを付け、自然死するまで生かす方針。ため池などで捕獲されたものは研究対象として活用する。

## 繁殖防止へ保管プール

市内にはため池が104か所あり、ミドリガメが捨てられて大繁殖し、市は2011年度と15年度に約7000匹を捕獲した。13年度から引き取りを始め、14年度は外来生物を捨てないことを市民の責務と定めた条例も制定。今年度から、ため池を管理する水利組合や住民に捕獲方法を伝える講習会も始めている。

藤原繁樹・市環境総務課計画係長は「住民の積極参加を促すためにも、捕まえたミドリガメは処分せず、有効利用する技術を確立させたい。行政と市民が協力して問題を解決する八明石モデルを全国に発信できれば」と話している。

## ミドリガメ



ミシシippアカミミガメを放す市職員(明石クリーンセンターの保管プールで)